

通常、日付けは最初と最後だけが指示され、中間は記述されないで、適当に割り当てる。

94596 = 全数字の総和の下 5 桁。

51064 = α , δ の数字の合計の下 5 桁。

さらに平文で光度 = 14 等級と付け加えている。

発信者: MARSDEN

7. Nova, Supernova に関するもの

[例]

N6907 SUPERNOVA GONZALEZ

19501 40529 70000 20221 12458 04150

10050 10020 66708 36829 MAZA GREEN

NGC 6907 に Supernova が出現, Gonzalez が観測 (発見)。

19501 = 1950 年分点に準拠した概測位置。

40529 = 1984 年 5 月 29 日

70000 = .70000 日 (UT)

20221 = 赤経 = $20^h 22^m 1$

12458 = 赤緯 = $-24^\circ 58'$ } 1950.0

04150 = 1 桁目は無意味

2 桁目は光度の種類 = 4 = 写真

3 桁目からは光度 = 15.0 等。

10050 = 星雲の核から超新星までの赤経方向の角距離 = $-0050''$

10020 = 星雲の核から超新星までの赤緯方向の角距離 = $-0020''$

+- の符号は共通。

66708 = 全数字の合計の下 5 桁。

36829 = 赤経, 赤緯, 視状等級の和の下 5 桁。

MAZA: 発信, GREEN: 転電,

以上、天文電報の主要部分について説明したが、他にも変光星、種類の特定できない天体にも応用されることがある。東京天文台では、国の内外から年間百通もの天文電報を処理している。現在、ここで解説した形式が使用されていて、国内相互の通信にも応用されるよう望みます。

雑 報

IAU Colloquium 82

Cepheids: Observation and Theory に参加して

IAU Colloquium 82 は 5 月 28 日から 6 月 1 日まで、カナダのトロント大学を会場としてもたれた。これは、隔年ごとにアメリカで行なわれてきた、変光星及び関連星の研究会を今年はカナダにもってきたものである。今年にはケフェイド型変光星が発見されて 100 年、David Danlap 天文台が開設されて 50 年ということもあってだろう。参加者は約 50 名でアメリカ、カナダの参加が多かった。相対的に観測屋の参加が多かった。

前半の二日間は、銀河及び系外銀河の中のケフェイド型変光星観測の報告があった。赤外領域での測光や、CCD などの新しい装置を使った測光の話が目についた点である。短周期と長周期ケフェイドでの P-L-C 関

係の関連などに議論があった。

後半は、変光星理論、二重周期ケフェイド、種族 II のケフェイドの報告があった。J. Cox が各種変光星の脈動励起機構についてのまとめを行なった。かくしゃくとした報告であった。二重周期ケフェイドでは、この変光星が H-R 図上で、ほぼ同一の有効温度の領域にあることが再確認された。種族 II のケフェイドでは、W. Virginis 型の変光曲線を、脈動モード間の共鳴で説明しようとする A. Cox の話がおもしろかった。

ケフェイド研究の中心は、観測も理論も、長周期ケフェイドやケフェイド関連の長周期変光星に移っているのだというのが全体の感想である。

今回は日本からの参加者は私一人であった。なんといっても、このような小研究会では、参加者と直接に関連した問題で話をする事ができる事が大きな魅力である。若い研究者の参加は特に有意義であると思う。

(相川利樹)

お 知 ら せ

山田科学振興財団研究援助候補推薦について

山田科学振興財団より本会あてに、下記内容の 60 年度分研究援助候補の推薦依頼がありましたのでお知らせ致します。

記 (推薦要領抜粋)

1. 援助の対象: 自然科学の基礎的分野における重要かつ独創的な研究に従事する個人又はグループ。

2. 援助の金額: (A) 1 千万円前後 2 千万円以内の援助, (B) 3 百万円前後, 5 百万円以内の援助 併せて 10 数件。

3. 援助の期間: 原則として 1 年。

4. 推薦件数: 1 推薦者ごとに (A), (B) おのおの 1 ~ 2 件。

申請用紙を御入用の方は、学会庶務理事までお申し出下さい。申請書は、昭和 60 年 3 月 10 日までに学会あて提出して下さい。